

事業番号	10 05 03	事業改善シート（24年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	諏訪湖等管理費			担当	部局	建設部
				担当	課・室	河川課
<参考> 総合5か年 計画	プロジェクト	4-1 地域防災力の向上		E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp	
	施策の総合的展開	4 災害に強い地域づくり		実施期間	S63 ~	

1 事業の概要

目指す姿	諏訪湖釜口水門のほか県管理の樋門、水門等河川管理施設の日常の保守管理及び出水時等における操作を確実かつ適切に実施することにより、流域の水害の防止・軽減、水辺環境の保全、適切な水利用の推進を図る。	
現状	<input type="checkbox"/> 日常管理、保守点検により判明した不良箇所を解消し、流域の治水安全を保持している。(H23年度実施:釜口水門非常用発電機の修繕、水位局記録計の修繕) <input type="checkbox"/> 少雨による流入量低下の際は釜口水門で放流量調節を実施し、湖面湖水利用と下流域の水利用の調整を図っている。(H23年度実施) <input type="checkbox"/> 近年、水門樋門の設備不良及び操作不備に起因する浸水被害等は発生していない。	
県が関与する理由	<input checked="" type="checkbox"/> 法令等義務 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 県でなければ実施不可 <input type="checkbox"/> 民間、市町村でも実施可能だが、県関与の必要性有 <input type="checkbox"/> その他()	

① 成果目標(H24)

出水対応等必要時に水門、樋門等設備の不具合による操作・運転不能事故を生じさせない。

② 事業内容 (単位:千円)

項目	実施方法	H24事業実績	H24		H25
			(当初)	(決算)	(当初)
1. 人件費	直接	・釜口水門職員3名	20,334	20,334	18,867
2. 管理事務所経費	直接	・水門、樋門、管理事務所光熱費及び消耗品費 ・巡視船、管理用自動車燃料費(巡視船1、自動車1)	8,162	10,495	7,982
3. 釜口水門設備点検等	直接	・釜口水門各設備点検(1施設、1回/年) ・宿日直業務(宿日直122日、宿直243日)	20,660	17,247	19,506
4. 樋門・排水機場操作委託	委託	・樋門定期点検整備及び操作(53施設、点検8回/年) ・排水機場の設備点検及び保安点検(1機場、点検1回/月)	4,266	4,288	4,397
5. 用水ポンプ除塵作業委託	委託	・維持用水ポンプ取水部の除塵作業(1施設、作業1回/日)	500	0	503
6. ゲート・ポンプ点検委託	直接	・調節池のゲート及び排水ポンプ設備の点検(1施設、1回/年)	428	483	460
合計			54,350	52,847	51,715

事業	区分(単位:千円)	22年度	23年度	24年度	25年度
		前年度繰越			
予算額	当初予算	53,647	56,296	54,350	51,715
	補正予算				
	合計(A)	53,647	56,296	54,350	51,715
	国庫支出金				
Aの財源	県債				
	その他(使用料)	53,647	56,296	54,350	51,715
	一般財源				
コスト	決算額(B)	51,036	53,446	52,847	
	概算職員数(人)	3.00	3.00	3.00	3.00
	概算人件費	-	-	-	-
	概算事業費(B(A)+C)	51,036	53,446	52,847	51,715

項目	現況(見込)	H24			H25目標
		目標	成果	達成状況	
設備不具合による操作・運転不能事故	0件	0件	0件	達成	0件

目標に対する成果の状況	水門・樋門等河川管理施設の不良、操作不備による水害の発生はなかった。 (平成24年度の釜口水門の対応状況 洪水警戒体制:34回、50t以上放流:10回)
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか。	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 平成25年度以降も引き続き日常の保守管理を実施するとともに、出水時に適切な水門操作等を行うことで流域の水害の防止、軽減に努める。
---------------------	---